

インフルエンザ定点(小児科定点を含む)

インフルエンザ: 報告数は5件(前月比0.1、前年比0.8)でした。本年の1月をピークに連続して減少しています。例年の季節性インフルエンザ発生状況と同様に、ほぼ収束しているものと推測されます。

小児科定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が48医療機関から50医療機関に増えました。

(全体傾向)

報告数は3239件(前月比0.7、前年同月比1.2)と前月より減少し、前年に比しやや増加しています。手足口病(前月比0.2)とヘルパンギーナ(前月比0.4)の減少が大きな減少理由です。報告数は少ないですが増加してきたのはRSウイルス感染症(前月比7.4)でした。今後の増加が予想され、注意が必要です。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症: 171件(前月比7.4、前年同月比3.6)と急速に増加傾向にあります。この数年ピークの時期が前倒しになっている傾向にあります。菊池(9.4)からの報告が多いです。

※()書きは1ヶ月の報告数を定点数で割った値。以下同じ。

2. 咽頭結膜熱: 250件(前月比2.1、前年同月比1.4)で、前年と同様に8月に増加していますが、今年の増加はそれを上回っています。山鹿(34.5)からの報告が多いです。
3. A群溶連菌咽頭炎: 202件(前月比1.1、前年同月比1.7)で、前月比はやや増加しましたが5月をピークに減少傾向にあります。
4. 感染性胃腸炎: 1153件(前月比1.1、前年同月比1.2)で、昨年11月をピークに減少傾向にありましたが、やや増加しています。菊池(59.2)からの報告が多いです。1才にピークがあります。
5. 水痘: 160件(前月比0.8、前年同月比1.2)で、5月より減少傾向にあります。2才にピークがあります。
6. 手足口病: 474件(前月比0.2、前年同月比8.0)で、一昨年の流行と同じ傾向で7月をピークに収束に向かっていきます。今年夏の流行は一昨年と比べ半数をやや下回る程度でした。菊池(19.8)からの報告が多いです。
7. 伝染性紅斑: 3件(前月比1.5、前年同月比0.3)で、一昨年8月以降ずっと少数の報告が続いています。
8. 突発性発疹症: 225件(前月比1.2、前年同月比1.1)でした。この3年間、通年性に発症の報告がありますが、やや夏に多い傾向があります。
9. 百日咳: 1件(前月比1.0、前年同月比0.5)で、熊本からの報告でした。20歳以上でした。

10. ヘルパンギーナ: 382件(前月比 0.4、前年同月比 0.8)で、例年同様に7月をピークに減少しています。菊池(17.2)、天草(21.0)、宇城(14.0)からの報告が多いです。
11. 流行性耳下腺炎: 22件(前月比 1.2、前年同月比 0.2)で、H23年よりずっと減少傾向にあります。全国的に4-5年ごとに大きな流行を繰り返しており、(H22-23)谷間の期間と考えられます。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎: 報告数1件(前月比 ー、前年同月 0.5)熊本からの報告です。
2. 流行性角結膜炎: 報告数44件(前月比 0.9、前年同月 0.3)と減少しています。今夏は昨年夏季(6~8月)に比べますとはるかに少ない発生です。地域別では熊本33件、菊池4件、八代1件、有明5件、天草1件の報告です。年齢別では急性出血性結膜炎は30~39歳に1件、流行性角結膜炎は低年齢から高年齢層まで少数ながら幅広く発症しています。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

本年1月より、定点数が増加したため、前年とは比較できませんが、性器クラミジア感染症と淋菌感染症は前月、前年比とも僅かに増加していました。

1. 性器クラミジア感染症: 報告数54件(前月比 1.1、前年比 1.1)でした。前月比、前年比とも僅かに増加しています。男女別は、女性が37件と多く見られています。年齢別は、女性は20~29歳に22件と多く、男性では20~24歳に5件と多く見られています。地区別は、熊本42件と圧倒的に多く、次いで有明4件、宇城に3件、菊池、八代に各2件、御船1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症:
報告数17件(前月比 1.1、前年比 0.9)でした。前月比では僅かに増加、前年比では僅かに減少しています。男女別は、女性が10件と多く、年齢別では、女性では20~64歳、男性でも25~64歳と幅広く見られています。地区別は、熊本が10件と圧倒的に多く、次いで八代4件、菊池2件、宇城1件でした。
3. 尖圭コンジローマ: 報告数は4件(前月比 0.4、前年比 1.3)でした。前月比では減少、前年比では増加しています。男女別は、男女2件と同数でした。年齢別は、男性では25~34歳に、女性では25~29歳、35~39歳に各1件見られています。地区別は、4件とも熊本でした。
4. 淋菌感染症: 報告数は19件(前月比 1.1、前年比 1.3)でした。前月比、前年比とも増加しています。男女別は、男性に13件と多く見られています。年齢別は、男性は15~24歳に7件、30~44歳に6件、女性では15~54歳に幅広く見られています。地区別は、熊本14件、有明、宇城に各2件、八代1件でした。

基幹定点

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎: 報告数1件(60歳代)(前月比 1. 0、前年同月比 0. 3)でした。
2. 無菌性髄膜炎: 報告数9件(前月比 1. 8、前年同月比 2. 3)でした。増加傾向あり要注意。19歳以下が7例(78%)。
3. マイコプラズマ肺炎: 報告数11件(前月比 1. 6、前年同月比 0. 4)でした。1昨年と同様の推移。
4. クラミジア肺炎: 報告数1件(55-59歳)(前月から+1、前年同月比 1. 0)でした。

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症:
報告数26件(前月比 0. 9、前年同月比 0. 5)でした。70歳以上は14件(54%)。例年より低値で推移。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症:
報告数4件(前月比 0. 8、前年同月比 2. 0)でした。70歳以上は2例(50%)。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症:
報告数0件(前月に同じ、前年同月に同じ)でした。
4. 薬剤耐性アシネトバクター感染症:
報告数0件(前月に同じ、前年同月に同じ)でした。

届け出対象感染症

- 1類感染症: 報告はありませんでした。
- 2類感染症: 結核: 36件
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症: 24件
- 4類感染症: E型肝炎: 1件
デング熱: 1件
レジオネラ症: 5件
- 5類感染症: 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 2件
アメーバ赤痢: 2件
後天性免疫不全症候群: 1件